まほろん　令和３年度第５回文化講演会「縄文時代講座３」

「複式炉を考える」

令和３年 10 月 23 日　福島県文化財センター白河館
元福島県文化財センター白河館　学芸員　森　幸彦

１　複式炉とは？

・複式炉の命名
　後藤守一と梅宮茂　※福島市（旧飯野町）白山遺跡（1957 年調査　1960 年発表）

２　複式炉の特徴

・構造　土器埋設部+石組部+前庭部
・時期　大木９式～10 式の限定期　発生と消滅
・分布　北＝岩手・秋田、西＝富山、南＝埼玉
・国指定史跡　宮畑遺跡、浦尻貝塚、和台遺跡

３　複式炉文化

・住居：福島県内　1,000 棟以上　企画性
・集落：200 遺跡以上
・中心：文化の中心は福島県　安達太良？
・エネルギーの転換：土器から石へ
・土器：注口土器の出現
・石器：縦長剥片
・他の遺物：人体文土器、狩猟文土器、
　　土偶、石棒

４　複式炉の機能

・出現、消滅の論理的証明
・調理法説、祭祀説

５　「原始炉」の研究

森　幸 彦　（もりゆきひこ）

昭和 33 年生まれ。63 才。県立原町高校、明治大学文学部史学地理学科（考古学専攻）卒業。昭和 58 年県教育庁文化課に学芸員として採用、3 年の博物館設立準備を経て、昭和 61 年、県立博物館設立時から学芸員として勤務。平成 10 年、福島県文化財センター設立準備のため県庁文化課に異動。福島県文化財センター白河館「まほろん」を立ち上げ4年勤務し、平成 17 年より県立博物館に再び異動、平成 30 年 3 月退職。同年 4 月から大熊町教育委員会学芸員として勤務。他方、南相馬市鹿島区鎮座「伊勢大御神（いせおおみかみ）」宮司。延喜式内御刀神社、山田神社ほか数社の宮司。専門は縄文文化研究。

梅宮茂氏「複式炉文化論」の骨子

時　期：縄文時代中期後葉≪大木 9a 式～大木 10(新) 式≫

機　能：調理法の多様化・火への信仰・火山信仰

・石組部＝暖房用焚き火・照明・土器の煮沸・土製品の焼成

埋設土器部＝調理・火種の保存・火の供献　・前庭部＝火の祭祀

住　居：３本主柱または４本主柱・設計のパターン化・収容人口増加に対応・強固・立体空間利用・場の分化・火棚の存在・冷涼化対策

集　落：大規模化・環状集落・安達太良型複式炉

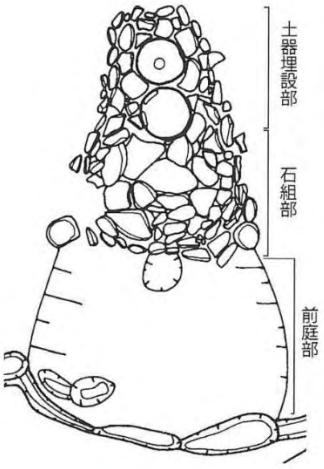
文化圏：安達太良山麓を中心とする約 80km 圏内

精神面：火山安達太良山の信仰

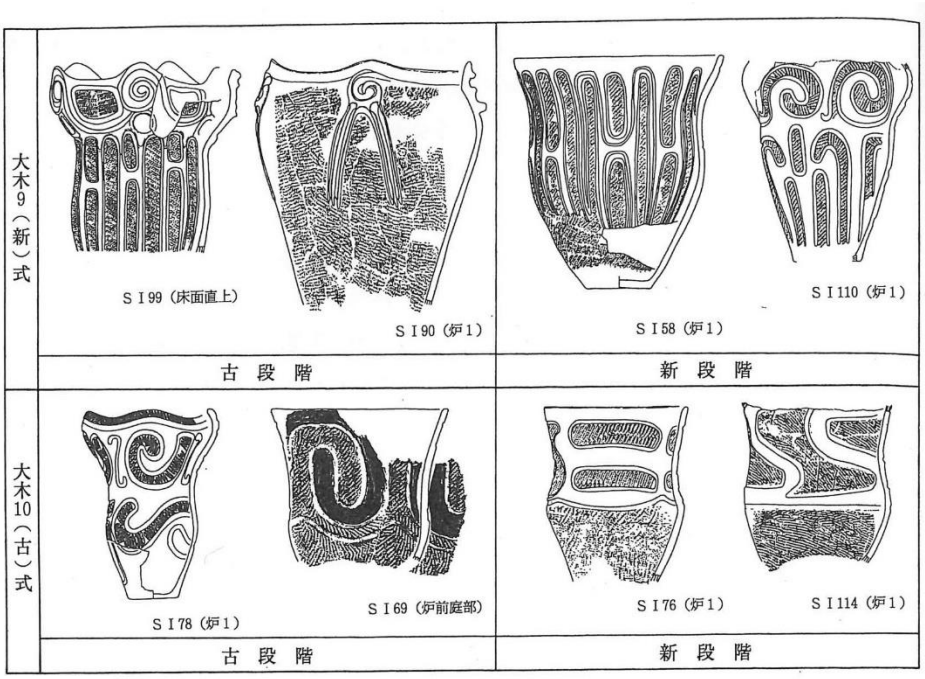
その他：注口土器の出現（木の実酒）、貯蔵食料、種子類保存、パン状炭化物、サケ・マス乾魚保存、取灰、中心地域移動説

第１図

複式炉各部の名称
二本松市塩沢上原 A 遺跡
12号住居跡



第２図　複式炉の断面　福島市和台遺跡　134号住居跡



第３図　法正尻遺跡における大木９(新)式～大木10(古)式の土器の変遷

高木遺跡251号住居跡　複式炉と炉内埋設土器（大木9新式）

高木遺跡269号住居跡　複式炉と炉内埋設土器（大木10a式）

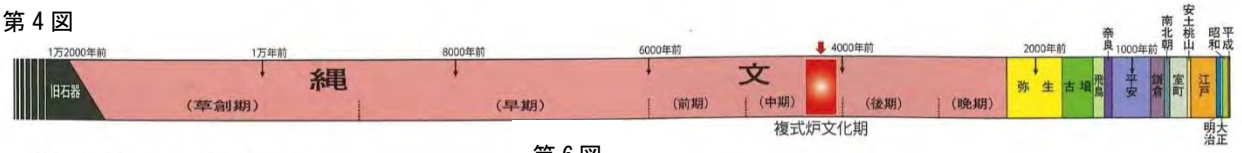
高木遺跡179号住居跡　複式炉と炉内埋設土器（大木10a式）

第４図

大型の竪穴式住居の跡　郡山市曲木沢遺跡

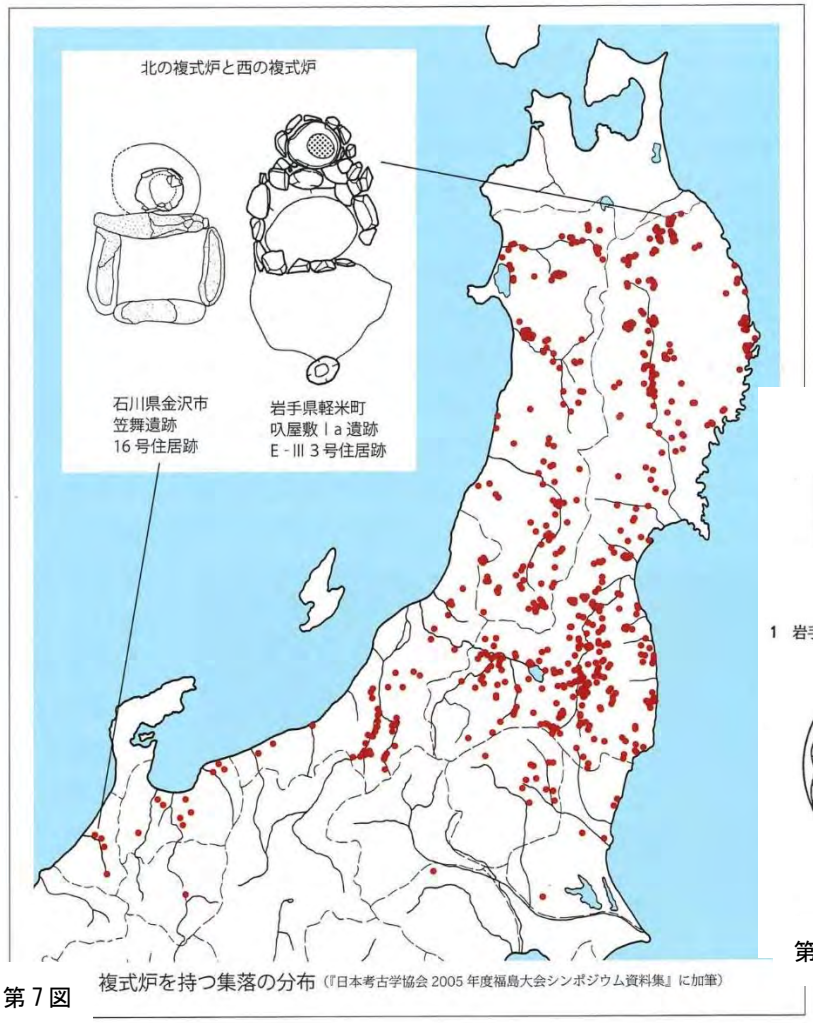
こんなに人が入れます　郡山市曲木沢遺跡

第５図

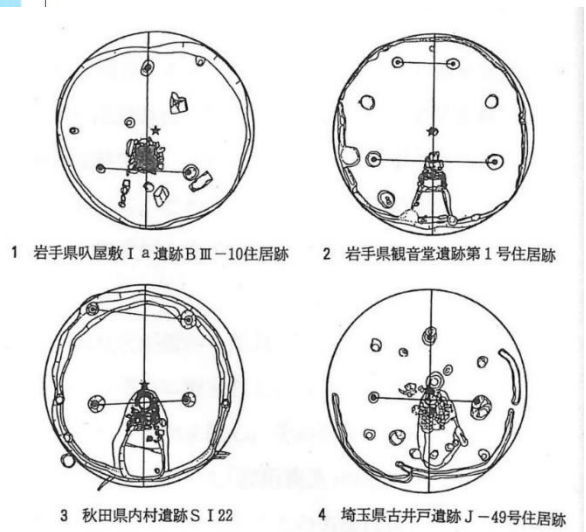


「複式炉文化」の時間的位置

第６図



第7図　複式炉を持つ集落の分布（『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』に加筆）

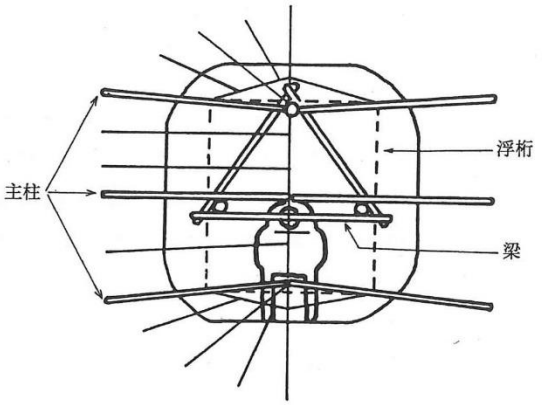


第8図　分布の南端・北端の複式炉をもつ住居跡

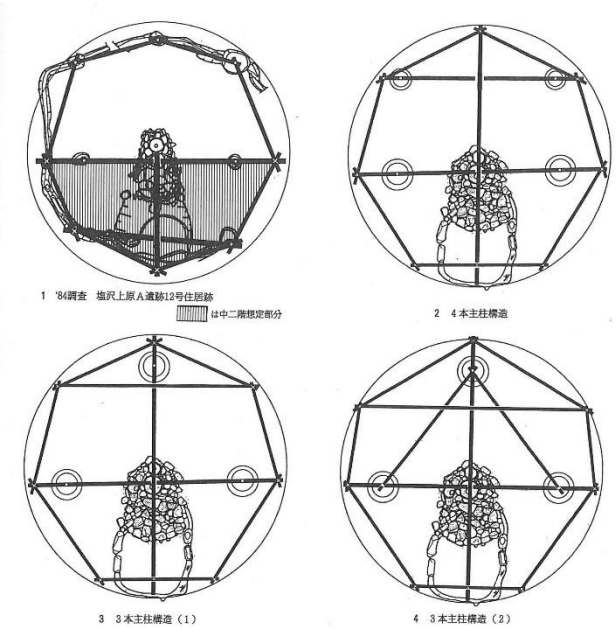
第9図　福島県内の複式炉を持つ集落の分布

図19　原町区域の縄文時代遺跡の時期別分布

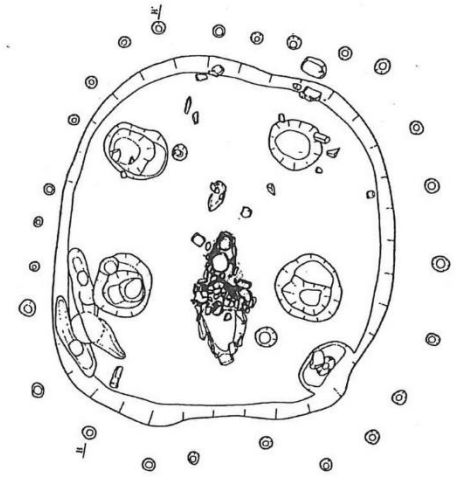
第 10 図



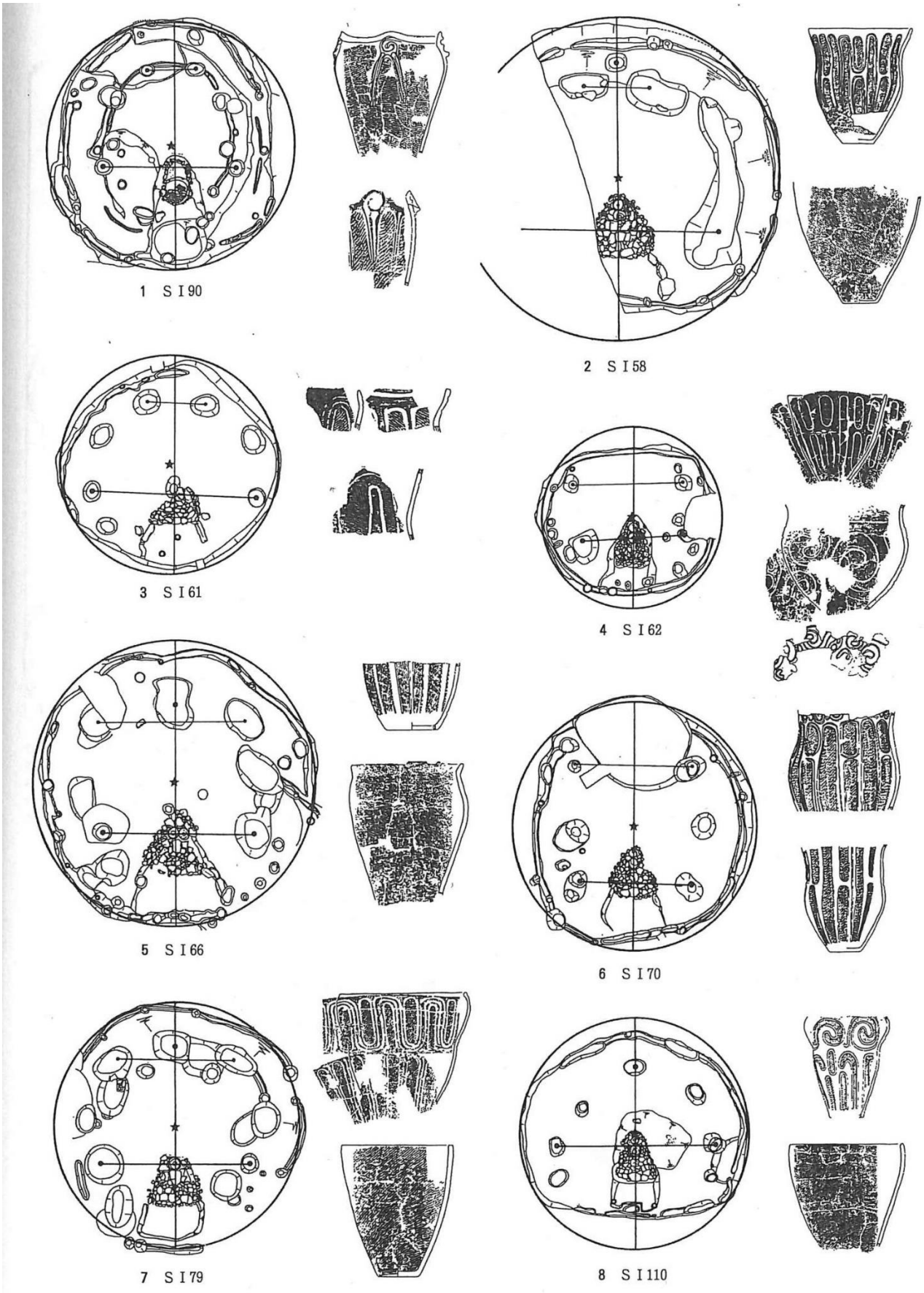
第 11 図　岩淵遺跡第１号住居跡の上屋構造
（目黒1976より転載）



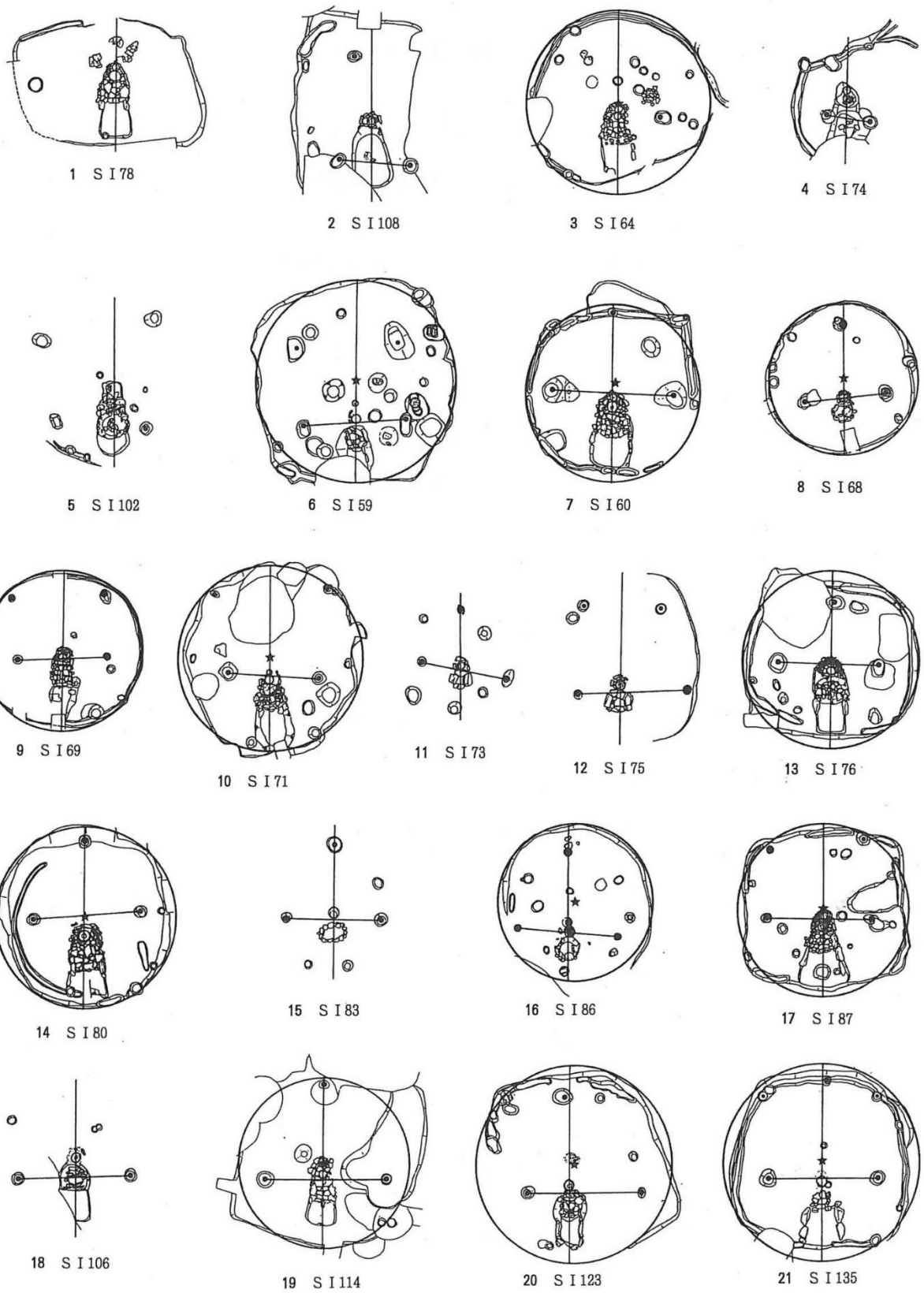
第 12 図　復式炉をもつ住居跡の上屋構造推定図



第 13 図　上ノ台A遺跡ＳＩ36



第14図　法正尻遺跡における大木9(新)式期の住居跡



第15図　法正尻遺跡における大木10(古)式期の住居跡

竪穴式住居をつくる

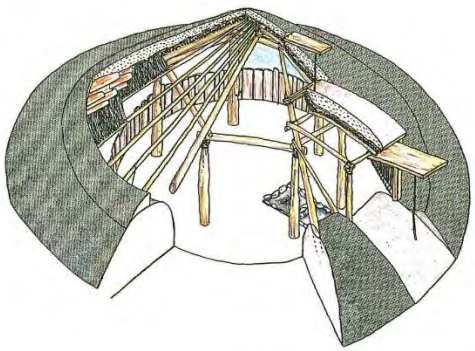
第 16 図

復元された竪穴式住居　福島県立博物館

竪穴式住居の内部

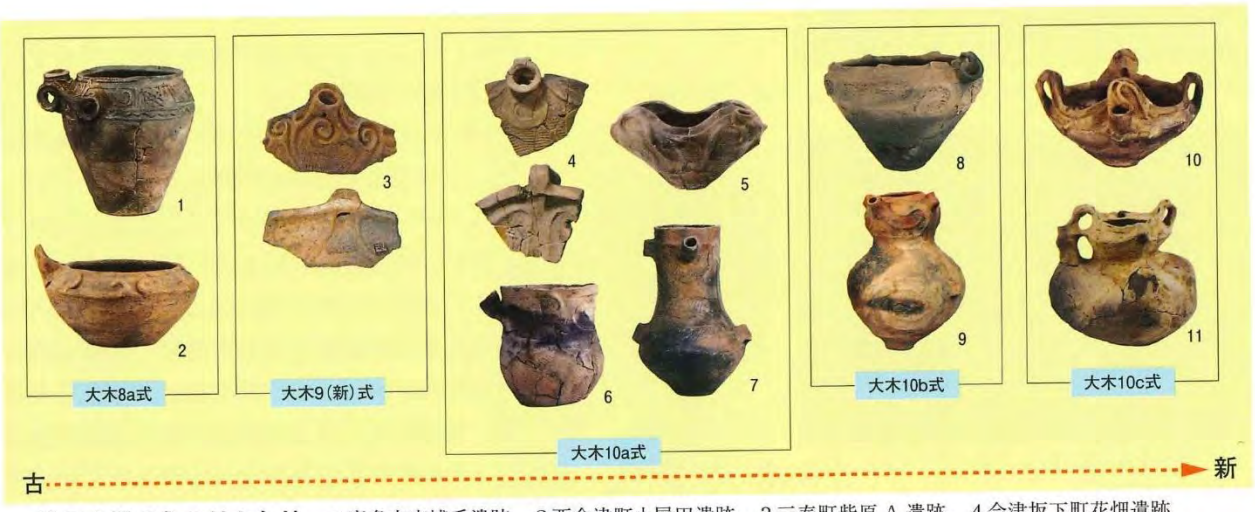
第 17 図

火災にあった竪穴式住居　岩手県御所野遺跡



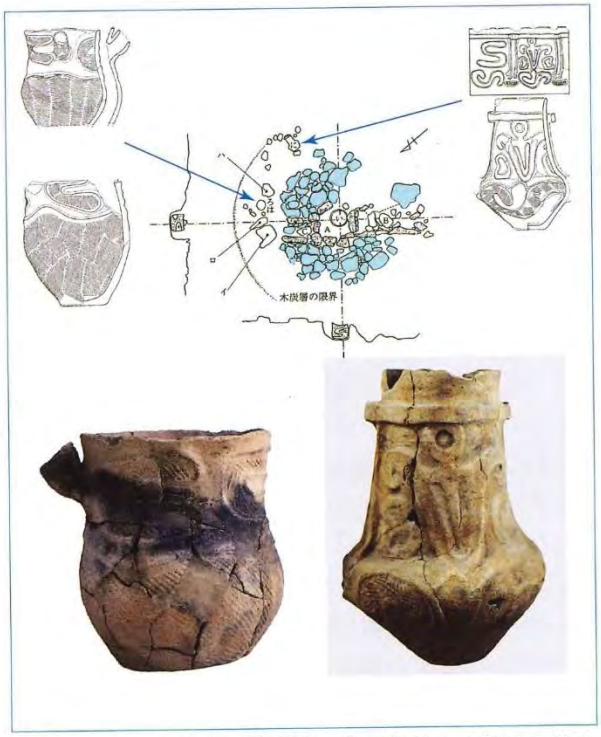
御所野遺跡の竪穴式住居の復元
（一戸町教育委員会提供）

第 18 図



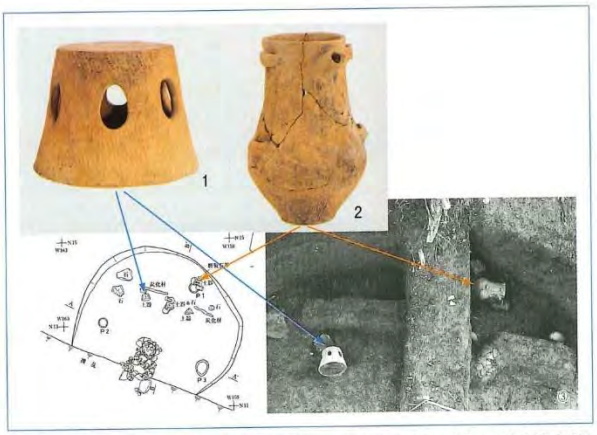
注口土器のうつりかわり　1喜多方市博毛遺跡　2西会津町小屋田遺跡　3三春町柴原A遺跡　4会津坂下町花畑遺跡　5・8飯舘村上ノ台遺跡　6南相馬市宮後遺跡　7・10・11本宮市高木遺跡　9田村市北鹿又地区

第19図



南相馬市宮後遺跡敷石住居跡　注口深鉢と人体文土器の出土状況

県指定史跡前田遺跡近くの山の斜面で農道工事中に発見された。このタイプの土器が5～6点まとまって出土したというが、他は散逸したらしい。右の土器に伴うと思われる蓋も出土している。→

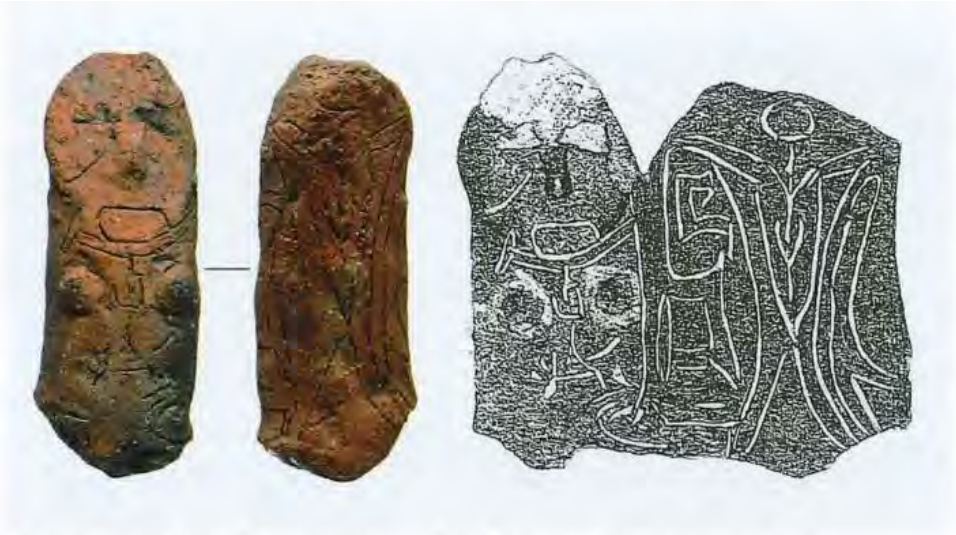


福島市宇輪台遺跡36号住居跡の出土状況　台形土器と注口壷形土器

写真提供：福島市教育委員会

田村市船引町北鹿又字向山地内採集　ヒサゴ形注口土器

第20図



本宮市高木遺跡　男根の形をした土偶の表と裏

福島市和台遺跡78号埋設土器　写真提供：福島市教育委員会

第 21 図　土偶の背中

楢葉町井出上ノ原遺跡　45号住居跡　同住居跡出土石棒と土偶

写真提供：中央大学文学部考古学研究室

第 22 図

福島市愛宕原遺跡９号住居跡　壁に突き刺さった石棒
写真提供：福島市教育委員会

第 23 図

福島市和台遺跡　狩猟文土器文様部

第 24 図

第 25 図　青森県韮窪遺跡の狩猟文土器

第 26 図　岩手県馬立Ⅱ遺跡の狩猟文土器

福島市和台遺跡78号埋設土器　写真提供：福島市教育委員会

第 27 図

第 28 図　福島市和台遺跡の人体文土器

地面を掘りくぼめた炉　縄文時代中期中ごろ

石でかこった炉　縄文時代中期中ごろ

石でかこって土器をうめた炉　縄文時代中期中ごろ

ふくしき炉

ふくしき炉

ふくしき炉　縄文時代中期後半

石でかこった炉　縄文時代後期後半

かまど　古墳時代

かまど　近代

ガスレンジ　現代

第 29 図　原始炉の研究

原子炉（現代）

第 30 図　南相馬市東町遺跡

福島県立博物館『企画展図録　発掘ふくしま４』(2017 年）の表紙

第 31 図　まほろん　竪穴住居幻影